

全国の緊急事態宣言が解除され、学校の再開やイベントの段階的な緩和が進んでいる状況下において、他都道府県の感染状況も考慮しつつ、本協会として主催競技会を開催するに当たって、（公財）日本スポーツ協会「新型コロナウイルス感染症の感染予防による再開ガイドライン」、（公財）日本陸上競技連盟「陸上競技活動再開についてのガイダンス」、大阪府、府域自治体の指導・助言を踏まえた感染予防対策を講じた競技会の運営マニュアルを定める。

## 適用実施大会 第88回大阪陸上競技選手権大会ほか

本マニュアルは、会場、競技会の状況に応じて、感染予防のため適宜、工夫、変更され適用されます。（※本文と、各競技会の感染予防対策は異なる場合があります。）

### ◎感染予防対策を講じた競技会運営（7月11日から適用する）

（当面は無観客とし、競技者・審判員等許可された関係者以外の入場を禁止して実施）

#### 1. 3密の回避

①対人距離（ソーシャルディスタンス）を確保する。

②マスクの着用を徹底する。（参加者全員、選手の競技中は除く）

③諸室の換気と温度調節

- ・換気設備を運転し、窓・ドアを開放する。気温が上昇した場合、熱中症予防の観点から空調機等による温度調節をおこなう。

④競技者受付

- ・参加料は前払いを原則とし、現金の受渡はしない。中止の場合の返金はしない。
- ・参加者は「健康状態確認書」、「体調管理チェック表」の提出で受付とする。  
※健康状態確認書、体調管理チェック表は別紙参照
- ・プログラムは配布しない。（※大会により検討が必要）
- ・透明シールドを設置し、間隔を空けて並ぶ配慮をする。

⑤招集の簡素化

- ・招集所では透明シールドを設置し、並ぶ位置を明示し、○付けのみで現地コールとする。
- ・腰ナンバーカードは各自が取る。（使い捨ての貼り付け式）  
（※④の競技者受付のみで出場者の情報処理が対応できる場合は招集所を設置せず、現地コールのみとする。）

⑥現地コール対策

- ・スタート待機所、フィールド待機所はソーシャルディスタンスを確保できる広さを確保し、審判員はフェイスシールドを着用する。
- ・トラック競技は一度に多人数が集まらないように余裕を持った番組編成をする。

⑦役員控室

- ・使用はソーシャルディスタンスを確保できる人数とし、オーバーする場合は、屋外やスタンドに場所を設置する。

⑧更衣室

- ・一度に多人数が使用しないように張り紙もしくは監督者を置き、滞在は短時間となるよう指導する。（大阪選手権は、入退室管理表を使用し管理）
- ・換気扇を常に作動させ、シャワーの使用は禁止する。

⑨医務室、隔離室の設置

- ・熱中症対策も考慮して広めの部屋を準備し、医師・看護師を常駐させる。
- ・発熱者等の発生に対応できる隔離室を確保する。（適切な部屋が確保できない場合は、飛沫感染防止可能なカーテン、パーテーションで仕切ったコーナーを用意する。）

#### ⑩ スタンドの使用

- ・当日参加の競技者以外は、申請された監督等許可された者のみの使用とし、ソーシャルディスタンスが守れるようにする。
- ・声を出しての応援は禁止する。

#### ⑪ その他の留意事項

- ・チーム、学校は競技者の待機場所を設置せず分散集合とし、個別にソーシャルディスタンスを空けて待機する。同時に滞在時間が短くなるように競技会前後ミーティングの自粛も要請する。

### 2. 接触感染の予防対策

- ・感染経路となりうる共有する物品やドアノブなど高頻度接触部位については主催者において消毒するが、参加者各人が注意し、接触後の手洗いを徹底する。
- ・競技者、審判員、その他全ての入場者は、競技終了後の手洗い・消毒を行う。その為手洗い所を設置する。手洗い場には石鹸（ポンプ式）を準備する。（「手洗いは30秒以上」の掲示）
- ・トイレについては、こまめに消毒し上記同様石鹸（ポンプ式）又は消毒剤を設置する。
- ・手洗い場にはペーパータオルを設置するか、マイタオル持参を要請する。

### 3. 参加者の制限等

#### ① 大阪陸協登録者で、大阪府在住、在勤、在学者とする。

※強化委員会推薦者については別途考慮するが、他の都道府県の感染状況を踏まえ判断する。

#### ② 入場許可者

- ・当日の当該競技出場者
- ・申請を受けた監督・コーチ（監督章を配布）
- ・競技役員（※総務員等の競技本部基幹役員を除き、65歳以上の競技役員には原則として委嘱しない）
- ・補助員（※当面は学生等に依頼せず競技役員のみで競技進行する）
- ・その他（依頼された業者）

#### ③ 入場制限

- ・競技場内は当該競技参加者のみのとし、終了後は直ちに退場を促す。（競技場入口に「許可者以外の入場禁止」の注意書きを設置）

### 4. 参加者の健康状態確認等

#### ① 競技役員を含めた全ての参加者に、「健康状態申告兼体調管理チェックシート」の提出を求める。

#### ② 入場時の体温チェック

- ・非接触体温計又はサーモグラフィーを用いて行う。

#### ③ 参加者は「大阪コロナ追跡システム」に登録する。

※入場口に複数のバーコードを2mおきに掲示する。

#### ④ 感染予防責任者、感染予防主任の配置

- ・感染予防責任者は、感染防止マニュアルに基づき、競技会全体の感染予防対策を管

理、監督する。感染予防主任は、配置された審判部署における感染予防対策の実施、管理を行う。

## 5. 番組編成

### ①トラック競技

- ・400m までは予選・決勝、800m 以降はタイムレースとする。  
(800m までは9名以内、1500m 以上は12名以内、3000m 以上は2段階スタート)  
※当面この人数から始め、状況により考慮する。
- ・中長距離種目では、レース中の密集を避ける為シード組を作らない。
- ・スタートポイントへの集合時間を分散するため、余裕のある競技ダイヤを作成し、現地集合時刻（現地コール時刻）を明示する。

### ②フィールド競技

- ・ベスト8は実施予定。(状況に応じ変更される場合もあり得る。)

### ③競技時間にゆとりを持たせるため、ナイターも視野に入れる。

## 6. 当日の競技会運営

- ・人と人が接する場所では、アクリル板・ビニールシートにより遮断するなど、部署に応じた感染防止対策を講じる。  
(競技者受付、審判受付、総務席、情報処理席、記録席、電光操作室、アナウンサー室、写真判定室など)
- ・情報端末、計測機器、パソコン、手旗などの共用物は、利用者交代時にエタノール70%以上含有する消毒剤で消毒し、使用後は手洗いを実施する。
- ・競技開始前の審判打ち合わせは実施しない。  
(伝達事項はHPに記載、もしくは役員受付で配布)
- ・給水を実施する場合は、担当者は競技開始前に再度アルコール等で手指を消毒し、マスク、手袋、フェイスシールド等を着用する。  
給水は、ペットボトル(250ml程度の小さなもの)を用意する。  
ペットボトルはフタを開けずそのまま(アルコール等で消毒した)テーブルに並べ、手渡しはしない。(感染予防対策を講じたうえで、紙コップを使用する場合がある。)
- ・競技者、審判員は、跳躍・投てきの用具・用器具を使用する前に手指を消毒する。  
また、器具を使用した後は手洗い・洗顔を実施する。用器具は定期的に消毒する。
- ・滑り止め(炭酸マグネシウム)は、基本競技者自身が準備し、使用する。  
競技者同士の共用はしない
- ・混成競技控室は原則設けない。
- ・感染疑い者が発生した場合の対策  
医事班により隔離を行い、医師の診断を踏まえ、医療機関受診、検査等の対応を講じる。  
症状を踏まえ、競技会の継続等の協議を行う。

## 7. その他全般的な注意事項

- ・競技者、競技役員が行うべき感染予防対策に関するチェックリスト(HPの掲載)を熟読し、遵守を促す。
- ・競技者、審判員共に参加を見合わせるべき項目をHPで周知する。
- ・感染拡大防止の為に「新しい生活様式」等の注意事項をHPに掲載する。
- ・ゴミ箱は設置せず、体液の付着したゴミは袋に入れ持ち帰る事を周知する。
- ・競技会に参加した全ての者は、競技会終了後2週間以内にCOVID-19による感染症を発症したときは、直ちに大阪陸協に濃厚接触者の有無について報告すること。